

限界支障検知装置

曲線半径200m以下の曲線部に設置しており、列車が何らかの障害で対向線路にはみ出し限界支障検知棒に接触したとき、特殊信号発光機を明滅させ、対向および後方列車に異常を知らせます。

京津線13カ所(検知棒78本、特殊信号発光機34機)、石山坂本線15カ所(検知棒102本、特殊信号発光機40機)に設置しています。

なお、交野線にも2カ所設置しています。

自動車侵入検知装置

石山坂本線の三井寺の併用軌道(道路上に敷設された軌道)と専用軌道(専用の敷地内に敷設された軌道)の境界付近は、道路構造上、夜間に自動車が誤侵入する可能性があります。侵入時を早期に検知し、接近する電車に知らせ、事故を未然に防止する装置です。そのほか自動車侵入検知装置以外に、LED表示板および矢印灯で夜間、自動車のドライバーに注意を促して誤侵入防止に努めています。



▲三井寺併用境界

安全対策／踏切

踏切の解消

踏切における根本的な安全対策は立体交差化により踏切を解消することです。当社では、立体交差化を積極的に行い、踏切の解消に努めています。

昭和45年に307カ所あった踏切は現在では226カ所まで減少しています。

近年では、平成11年11月に京阪本線(寝屋川市内)連続立体交差化事業により寝屋川市駅付近を高架化しました。現在は、京阪本線淀駅付近の立体交差化事業を進めています。これは、京都市の都市計画事業として、京都競馬場の最寄り駅である淀駅を中心に京阪本線約1.5kmを高架化する事業で、平成25年度の竣工を目指しています。

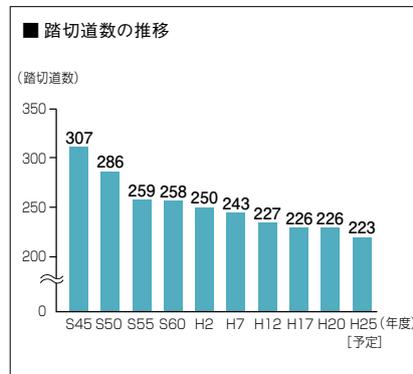
高架化により3つの踏切道を廃止し、利便性向上、安全確保とともに、競馬開催日の混雑を解消します。新駅は現在の位置より約280m京都方面に移設し、2面4線のホームを持つ高架駅に生まれ変わります。



▲淀駅踏切



▲淀駅付近高架化工事



踏切事故防止のための機器

既存の踏切についても、各種機器を設置し、事故防止に取り組んでいます。

◆ 踏切支障報知装置

踏切内にて列車を停止させなければいけない事態が生じた場合、非常ボタンを押すことにより運転士に知らせるもので、



▲踏切支障報知装置

京阪線の踏切障害物検知装置が設置されていない26踏切に設置し、事故を未然に防止しています。

◆ 踏切障害物検知装置

踏切警報機作動中に踏切内で障害物を検知すると、特殊信号発光機を点滅させて運転士に知らせるとともに、注意喚起の警告ブザーを鳴動させる装置です。現在では、京阪線96カ所、大津線40カ所の踏切に設置しています。



▲踏切障害物検知装置

◆ 列車進行方向指示器

踏切に設置している閃光灯や列車進行方向指示器をLED化することで、従来よりも遠方からの視認性を高めています。



▲列車進行方向指示器

踏切での啓発活動

踏切道を通るドライバーや歩行者に、踏切道の無理な横断や自動車の無謀通行をしないよう啓発活動を行っています。春秋の全国交通安全運動の期間には、実施にあたり、寝屋川警察署・伏見警察署の交通課の講習を受講しています。

また、沿線の小学校に対しては、踏切事故に対する子どもたちへの教育指導もお願いしています。



▲踏切での啓発活動